

## 活力を創出する研究・研修を紹介します

### ～「日本一の和牛」を目指して～ 全国屈指の能力の高さ! 「花清桜」号

はなきよざくら

山口県では、肉量、肉質、牛肉の「おいしさ」等に優れた黒毛和種種雄牛を育成し、凍結精液を生産して県内畜産農家へ供給しています。

このたび、次世代の基幹種雄牛候補として育成中の「花清桜」号の能力検定（現場後代検定）が令和3年6月に終了し、脂肪交雑（霜降りの度合い）とバラの厚さが県歴代1位、ロース芯面積と推定歩留が県歴代2位と非常に優れていました。特に、5等級（最高品質）率が去勢で89%、雌で78%、全体で83%と全国的にもトップレベルの成績を収めました。

また、令和4年10月に鹿児島県で開催予定の第12回全国和牛能力共進会の出品候補種雄牛として、今後さらなる活躍が期待されています。

〔畜産技術部 家畜改良研究室〕



「花清桜（はなきよざくら）」号

#### ※現場後代検定

（公社）全国和牛登録協会が種雄牛の産肉能力を評価するために定めた検定方法です。県内農家において、検定する種雄牛の子牛を肥育し、枝肉成績を調査します。

#### 現場後代検定成績

	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (cm <sup>2</sup> )	バラの厚さ (cm)	推定歩留	脂肪交雑 (BMS No)	4,5 等級率 (%)	5 等級率 (%)
花清桜	501.5 4 位	67.6 2 位	9.0 1 位	74.8 2 位	8.6 1 位	100 1 位	83 1 位
【参考】 R1全国枝肉成績	487.5	63.8	8.0	74.6	7.6	86	47

※「花清桜」枝肉下段は県有種牛の歴代順位

※※枝肉成績は去勢、雌の加重平均



検定牛の枝肉（BMS No.12）

#### 〈主な内容〉

～「日本一の和牛」を目指して～  
全国屈指の能力の高さ! 「花清桜」号

畜産技術部 家畜改良研究室  
(やまぐち和牛改良繁殖グループ)

#### ◇各部の取り組み

水田の水管理をスマート農機で省力化  
令和4年度担い手養成研修の受講生を募集します!  
少花粉スギ苗木の出荷が始まります  
近年発生する大豆の落葉症状の原因は、「ダイズ褐色輪紋病」です  
山口県内の温暖地域でも生育旺盛! やまぐちオリジナル  
リンドウ新品種「西京の瑞雲(さいきょうのずいん)」  
のれん式チェーン電気柵による獣害対策

農業技術部 土地利用作物研究室  
農業担い手支援部 就農・技術支援室(農業大学校)  
林業技術部 林業研究室  
  
農業技術部 資源循環研究室(病害虫管理グループ)  
  
農業技術部 花き振興センター  
本部 経営高度化研究室

# 水田の水管理をスマート農機で省力化

農業従事者の減少が進む中、少ない人員で多くのほ場を効率的に管理する技術が求められています。特に、水稻栽培では水管理に係る労働時間が全体の約3割を占めています。近年、水管理についてはパソコン等で簡単にほ場の水位が設定でき、入水管理が遠隔・自動で制御可能な「自動給水システム」が開発されました。

土地利用作物研究室では、萩管内において当システムの導入効果の検証に取り組みました。自動給水システムはパソコンで水位を管理する時間は必要になりますが、ほ場までの移動、水位確認、入水などに要する時間が削減されることで、水管理時間は慣行の管理に比べて約8割削減され、大幅な省力効果が認められました。また、浅水管理、間断かん水などの設定も可能で、水管理が適期に行えることから、増収効果があることも示されています。〔農業技術部 土地利用作物研究室〕

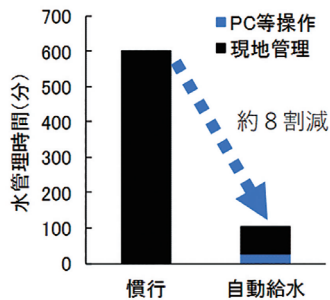


図 自動給水システムによる水管理の省力効果  
調査ほ場の面積は約25a、調査期間は5月9日～9月5日。現地管理には事務所からほ場までの移動時間（移動距離往復約10km）を含む。



図 自動給水システム（パソコン等で簡単にほ場の水位が設定でき、入水管理が遠隔・自動で制御可能）

# 令和4年度担い手養成研修の受講生を募集します！

農業大学校では、本格的に農業を志す方を対象に、年間を通じて農業経営に必要な専門技術や流通、販売のしくみ・方法などについて学ぶやまぐち就農支援塾「担い手養成研修」の令和4年度研修生を募集します。

本研修では、自らが経営主となる「自営就農コース」と、農業法人への就業（就職）を目指す「法人就農コース」を選択することができます。

さらに、希望に応じて2年目に就農希望地域での農家研修を継続することも可能です。

就農・就業をご検討中の皆様はお気軽にご相談ください。

〔農業担い手支援部 就農・技術支援室 電話：0835-27-2714〕

募集区分	募集期間	募集説明会	面接選考
一次募集（終了）	8月30日（月）～10月5日（火）	中止	10月19日（火）
二次募集	10月25日（月）～11月30日（火）	11月7日（日）	12月14日（火）
三次募集	12月27日（月）～2月8日（火）	1月30日（日）	2月22日（火）



令和3年度研修生の皆さん



令和2年度研修生（野菜・自営）

## 少花粉スギ苗木の出荷が始まります

「花粉症」は日本人の多くが症状を訴えている国民病です。その原因であるスギやヒノキの花粉を少なくしてほしいという声を、多く聞きます。一方で、持続的な森林資源の循環利用のためには、木材生産能力に優れているスギ・ヒノキが、今後も重要な造林樹種であることには変わりはありません。

森林総合研究所は都道府県と連携を図りながら、第1世代精英樹<sup>1)</sup>同士の交配によるF1(苗木)を植栽した次世代のF1の中から、雄花の着生の有無や基本的調査・選定等を行い、花粉の少ない(少花粉スギ)品種を選抜しました。本県は、そのクローンによる採種園を、平成27年からミニチュア少花粉スギ採種園<sup>2)</sup>として、整備しています。

その採種園から令和元年に採種を行い、民間苗畑で育苗されたものが、令和3年度に初めて少花粉スギ実生苗木として出荷されます。

今後は、スギ・ヒノキ林を伐採した後に、これら花粉の少ない品種が順次植栽されていくこととなります。〔林業技術部 林業研究室〕



スギ少花粉採種園



スギ少花粉苗木 苗畑

- 1) 精英樹：地域の人工造林地において、最も成長が優れた木として選抜され、植栽後の成長により更に選定されたもの
- 2) ミニチュア採種園：従来の採種園は植栽後、採種まで10年以上かかるのに比べて、ミニチュア採種園は着果促進としてジベレリン処理などの細かな管理を行うことにより、3年後から採種を行うことができる採種園

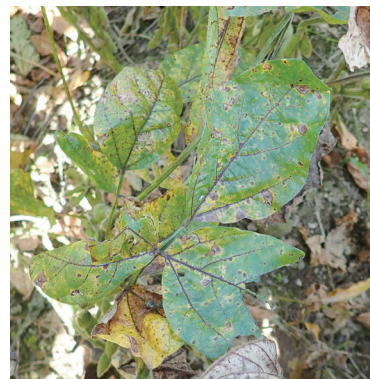
## 近年発生する大豆の落葉症状の原因は、「ダイズ褐色輪紋病」です

平成29年以降、県内で栽培される大豆が異常に早く落葉して収量が低下する症状が発生し、問題となっています。資源循環研究室では、落葉の原因が「ダイズ褐色輪紋病」であることを突き止め、この病気の発生生態や防除方法の確立に取り組みました。

この病気は8月以降に発生が拡大する高温性の病原菌によって引き起こされます。大豆の品種によって発病の程度に差があり、県内の主要品種である「サチユタカ」は比較的弱いため注意が必要です。また、病原菌は種子伝染や被害残さで越冬して翌年の伝染源となります。このため防除対策としては種子消毒や、大豆の連作は行わない等の耕種的防除によって一次伝染源を減らすことが重要です。さらに、大豆の生育期において有効な薬剤もわかっており、現在、薬剤の効果的な使用時期や回数について研究を進めています。〔農業技術部 資源循環研究室〕



ほ場全面に発生したダイズ褐色輪紋病



葉に形成された病斑

## 山口県内の温暖地域でも生育旺盛！やまぐちオリジナルリンドウ新品種 「西京の瑞雲（さいきょうのずいうん）」

花き振興センターでは、水田転作作物として有望なリンドウの育種に取り組んでいます。これまでに、極早生系の「西京の初夏（しよか）」をはじめ、暖地でも栽培できる耐暑性のオリジナル品種4品種を育成しており、このたび、これらに続く新しい品種として「西京の瑞雲」を育成しました。

「西京の瑞雲」は、エゾリンドウとササリンドウを交配して育成されたハイブリッドタイプであり、既存の育成品種よりも花の先端がしっかりと開きボリューム感に優れます。花色は深みのある青紫色で、9月中旬から10月上旬に開花します。定植2年目以降の切り花の収穫本数は1株あたりで6本以上（面積10a換算で42,000本以上）と、同時期に開花する他品種と比べて生育が旺盛であり、温暖な地域でも栽培が可能です。

現在、県内生産者が試験栽培に取り組んでおり、令和4年度からの切り花出荷が見込まれています。〔農業技術部 花き振興センター〕



## のれん式チェーン電気柵による獣害対策

本県では、獣害対策として侵入防止柵の整備を推進していますが、柵が設置できない用水路等からイノシシが侵入する被害が発生し問題になっています。

そこで、センターでは防府市の農業法人等と連携し、用水路等に「のれん式チェーン電気柵」を設置し、自動撮影カメラにより、効果の検証を行ったところ、有効であることがわかりました。

この電気柵は、地形に応じてチェーンの長さを変更し、動物の大きさに合わせて間隔を決めることができるもので（図1）、今回は大型イノシシの大きさに設定しました。チェーンがプラス極で水辺がマイナス極になり、イノシシが接触すると電気ショックにより撃退することができます（写真1、2）。

この電気柵は、獣類の大きさに合わせてチェーンの間隔を決める必要があります。今回は小型のイノシシが通過するなど侵入を防止できなかったため、間隔を狭めるなどの見直しが必要であることがわかりました。

また、今回の自動撮影カメラの映像では、イノシシ以外にも多くの獣類が水辺を通路として利用していることが確認されたので、この電気柵を川や水路からの侵入防止対策に活用されてはいかがでしょうか。

〔経営高度化研究室〕

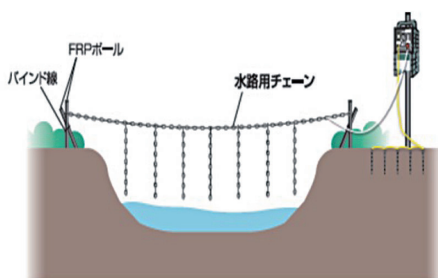


図1 チェーン電気柵の仕組み



写真1 チェーン電気柵に接触



写真2 逃走するイノシシ

### <山口県農林総合技術センター 企画情報室>

〒753-0231 山口市大内氷上1-1-1 TEL (083) 927-7011 FAX (083) 927-0214  
URL <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/index/index.html>